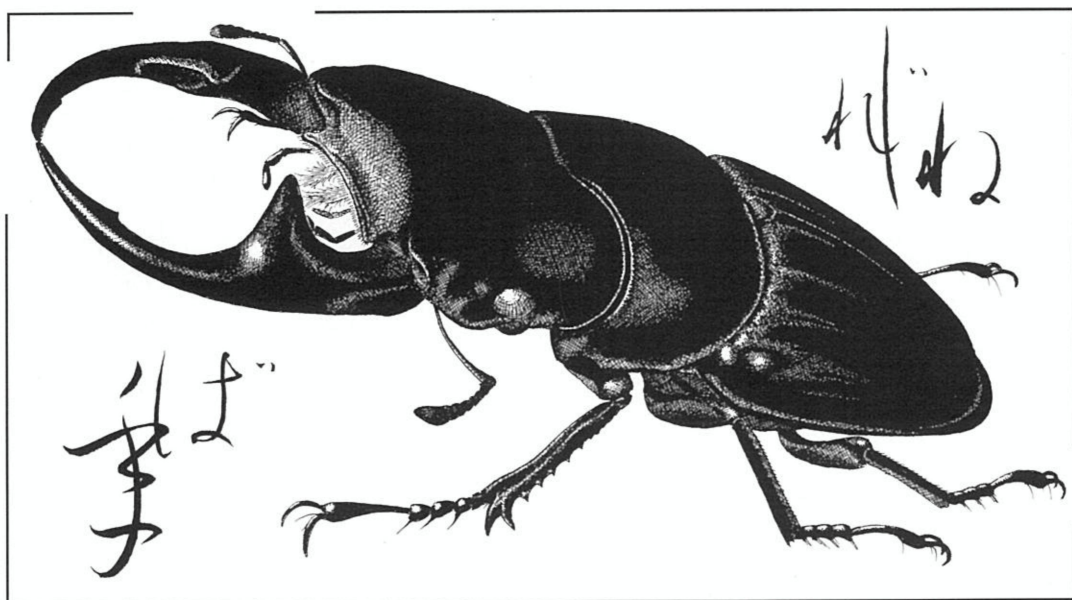




NEJIREBANE, No. 80, 15. Oct., 1998

三重県産コメツキムシの記録(3)

岸井 尚

〒569-1044 高槻市上土室1丁目 10-6-410

Ampedus (Ampedus) vestitus vestitus (LEWIS, 1894) ケブカクロコメツキ(写真13)

美杉村平倉(1♀, 29.III. 1985, 秋田; 1♀, 2.VI.1985, 秋田; 1♀, 8.VI.1986, 乙部). 尾鷲市三木崎(1♂, 3.V.1995, 生川).

Ampedus (Ampedus) ivanovi (JAKORSON, 1913) クロコメツキ(写真14)

美杉村平倉(1♀, 18.V. 1986, 生川; 1♀, 24.V.1986, 秋田; 2♀♀, 8.VI.1986, 乙部; 1♂, 15.II.1987, 秋田; 1♀, 31.V.1987, 今村; 1♀, 5.VI.1988, 乙部).

紀伊山地からは多くの報告例があったが、三重県下からの記録は見られなかった。前種ケブカクロコメツキと混同されていた可能性が強い。

Ampedus (Ampedus) mizunoanus KISHII, 1988 ミズノクロコメツキ(写真15)

宮川村広クリ谷(1♀, 9.VII. 1994, 生川).

上記の *ivanovi* に似た種であるが全く異なるもので, *takahachi*, *nubatama*, *yamato* などと同系の種である。記載時に記録された京都と奈良からのみ知られていたが、今回三重の分布も判明したので、近畿地域では広く分布するものと思われる。

Ampedus (Ampedus) japonicus japonicus SILFVERBERG, 1977 アカアシクロコメツキ

亀山市野登山(1♀, 25.VI.1992, 生川; 1♀, 22.V.1992, 生川; 1♀, 31.V.1992, 生川; 1♀, 25.VI.1992, 生川; 1♀, 20.V.1993, 生川; 1♀, 1.VI.1993, 生川; 1♀, 6.VI.1993, 生川; 1♀, 20.VI.1993, 生川; 1♀, 5.V.1996, 生川). 美杉村平倉(1♀, 22.XI.1986, 乙部; 3♀♀, 31.V.1987, 乙部; 1♀, 28.V.1988, 乙部; 1♂, 11.VI.1988, 乙部; 1♀, 15.VI.1988, 乙部; 1♀, 3.VI.1989, 乙部). 大内山村南亦山(1♀, 20.V.1995, 生川; 2♀♀, 31.V.1995, 生川; 1♀, 7.VI.1995, 生川; 2♀♀, 10.VI.1995, 生川; 1♀, 9.VII.1995, 生川; 1♀, 15.VII.1995, 生川; 1♂, 1♀, 26.VII.1995, 生川; 1♀, 15.VI.1996, 市川). 尾鷲市九木崎(1♀, 1.VI.1996, 生川)

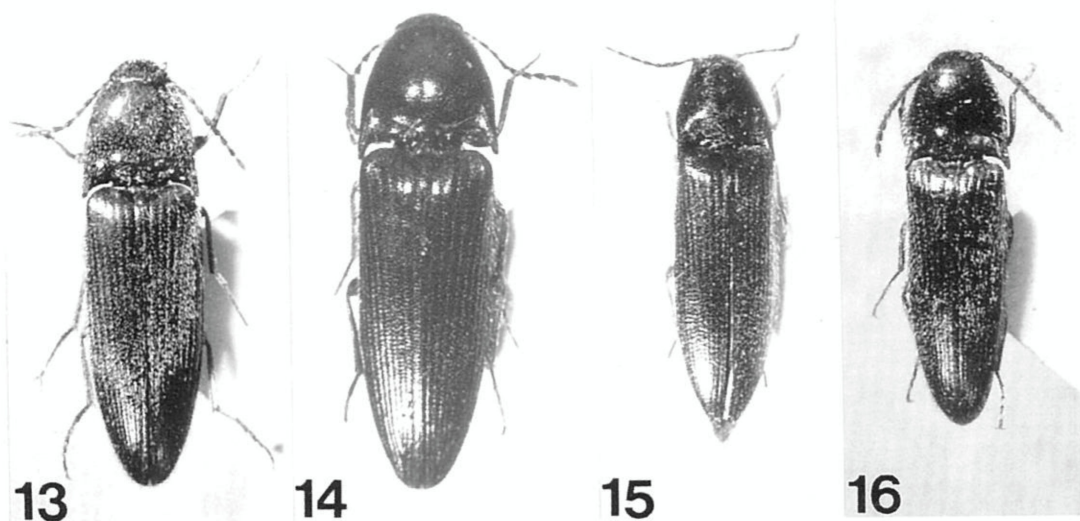


写真13-16: 13. ケブカクロコメツキ; 14. クロコメツキ; 15. ミズノクロコメツキ; 16. オオダイクロコメツキ.
Ampedus (Ampedus) yaku ohdai KISHII, 1983 オオダイクロコメツキ(写真16)

宮川村大台林道狸峠(1♂, 13.IV.1986, 乙部).

主として台高山系と称されている地域で見られる種であるが、三重からの記録はこれが初めてである。雄では上翅が全体に濃赤褐色気味の色を帯びることもあるが、屋久島産の原名亜種のように側縁が広く明瞭な黄色になることはなく、また雌は常に全体が黒色で、一様に黄赤褐色になるものはない。山梨・長野の高地帯にも近似のものが分布している。

Ampedus (Ampedus) tenuistriatus (LEWIS, 1894) ホソクロコメツキ

亀山市野登山(1♂, 1.VI.1993, 生川). 美杉村平倉(1♀, 8.VI.1986, 乙部). 大内山村南亦山(1♂, 18.V.1995, 生川; 1♀, 20.V.1995, 生川; 1♀, 18.VI.1995, 生川).

近似の *A. (A.) aureovestitus* KISHII, 1966 ケブカクロコメツキが愛知・滋賀・京都・奈良などの近接府県から報告され、また検しているが、三重県からの資料にはまだ接していない。*aureovestitus* については、かつて(1985, 1987)筆者は本種の高地または寒冷地適応型と見なしたが、これは誤りでやはり独立の別種である。

Ampedus (Ampedus) tamba KISHII, 1976 タンバコクロコメツキ(写真17)

美杉村平倉(1♂, 1♀, 18.V.1986, 生川; 1♀, 29.VII.1987, 秋田; 2♀, 11.VI.1988, 秋田・生川). 大内山村南亦山(1♀, 15.VII.1995, 生川).

類似種が多く同定が難しいが、両性の生殖器構造を検すると比較的容易である。

Ampedus (Ampedus) honguanus OHIRA, 1962 ホングウコクロコメツキ

宮川村父ヶ谷(1♀, 5.V.1989, 生川).

小型のクロコメツキ類の中では、もっとも識別しやすい形態を持つ種である。紀伊半島とその周辺で見られるが少ない。この地域以外では今のところ神奈川・高知から知られているに過ぎない。

Akitsu aquilus aquilus (CANDÈZE, 1873) クリイロニセコメツキ

亀山市野登山(1♀, 31.VII.1994, 生川). 尾鷲市九木神社(1♂, 13.VIII.1995, 生川).

Dalopius tamui KISHII, 1957 ホソナカグロヒメコメツキ

美杉村平倉(2♂♂, 8.VI.1986, 乙部; 1♂, 11.VI.1988, 乙部). 宮川村栗谷(8 exs., 9.VII.1994, 生川). 宮川村広クリ谷(2 exs., 24.IX.1994, 生川). 宮川村西谷(3 exs., 5.V.1994, 生川). 大内山村南亦山(1♂, 18.V.

1995, 生川; 4♂♂, 9.VII.1995, 生川; 1♂, 26.V.1996, 生川; 1♀, 15.VI.1996, 生川). 尾鷲市九木崎 (1♂, 27.VI.1993, 生川). 紀和町布引滝 (3♂♂, 11.V.1996, 生川; 2♂♂, 11.V.1996, 横関; 2♂♂, 25.V.1996, 横関).

Dalopius exilis KISHII, 1956 ナガナカグロヒメコメツキ
宮川村栗谷 (1♂, 9.VII.1994, 生川).

Ectinoides insignitus (LEWIS, 1894) ヨツキボシコメツキ
亀山市野登山 (1♂, 17.V.1992, 生川; 1♂, 23.V.1992, 生川; 1♀, 19.VI.1992, 生川; 1♂, 25.VI.1992, 生川; 1 ex, 26.IV.1992, 生川; 1♀, 2紋型, 20.V.1993, 生川; 1♂, 1.VI.1993, 生川; 1♂, 6.VI.1993, 生川). 大内山村南亦山 (1 ex, 6.V.1995, 生川; 1♂, 15.VI.1996, 生川). 紀和町布引滝 (1♂, 11.V.1996, 生川; 1♀, 11.V.1996, 横関).

Ectinus sepes (LEWIS, 1879) キアシムナボソコメツキ
美杉村平倉 (1♀, 28.V.1988, 乙部; 2♂♂, 8.VI.1986, 乙部). 宮川村大和村 (1♂, 3.V.1994, 生川).

Ectinus puberulus (MIWA, 1928) キンケオオカバイロコメツキ
美杉村平倉 (1♂, 3.V.1989, 乙部).

岐阜・京都・奈良・和歌山からの記録はあったが, 三重からはこれが初めてと思われる.

Ectinus sericeus sericeus (CANDÈZE, 1878) カバイロコメツキ
上野市外山 (1♂, 19.X.1996, 横関). 上野市西高倉 (1♀, 29.IX.1996, 横関). 白山町四季の里 (1♀, 4.V.1991, 河北). 美杉村平倉 (1♂, 8.VI.1986, 乙部; 2♀♀, 31.V.1987, 乙部; 1♂, 1♀, 11.VI.1988, 乙部; 1♂, 15.VI.1988, 乙部).

暗色型のものがしばしば見られ, 特に大台山系から四国・九州のものは褐色型より暗色型の方が多い.

Agriotes elegantulus LEWIS, 1894 ヒメカバイロコメツキ
亀山市野登山 (1♀, 12.VIII.1993, 生川). 大内山村南亦山 (1♂, 29.VII.1995, 生川).

Nipponoelater sieboldi sieboldi (CANDÈZE, 1873) オオナガコメツキ
亀山市野登山 (2♂♂, 2.VIII.1995, 生川). 上野市御斎峠 (1♂, 29.VII.1996, 横関). 上野市白樫岡八幡神社 (1♂, 16.VIII.1996, 横関). 宮川村父ヶ谷 (2 exs., 22-23.VIII.1992, 松井; 1♂, 15.VIII.1996, 生川).

Sericus bifoveolatus (LEWIS, 1894) コガネホソコメツキ
美杉村平倉 (2♀♀, 15.VI.1988, 乙部).

Vuilletus peropacus (NAKANE, 1959) ツヤケシミドリヒメコメツキ
美杉村平倉 (1♀, 3.V.1989, 乙部). 大内山村南亦山 (1♀, 31.V.1995, 生川). 紀和町木津呂 (1♂, 25.V.1996, 11.V.1996, 横関).

Vuilletus subopacus (NAKANE, 1959) コミドリヒメコメツキ
美杉村平倉 (1♂, 14.V.1989, 秋田; 2♂♂, 1♀, 21.V.1989, 秋田; 1♀, 17.VI.1989, 秋田).
上記ミドリヒメコメツキ 2種を, 同種の単なる形態変異とする考え方もある.

Dolerosomus gracilis (CANDÈZE, 1873) キバネホソコメツキ
菰野町雲母峰 (1♂, 29.IV.1993, 生川). 上野市外山 (1♀, 19.X.1996, 横関). 白山町四季の里 (2♂♂, 27.IV.1991, 河北). 美杉村平倉 (1♂, 1♀, 8.VI.1986, 乙部). 大内山村南亦山 (1♂, 18.V.1995, 生川; 1♂, 26.V.1996, 生川). 紀伊長島町高塚公園 (2♂♂, 1♀, 13.IV.1996, 生川). 尾鷲市桃頭島 (3♂♂, 4.V.1995, 市川; 1♀, 4.V.1996, 生川). 尾鷲市三木崎 (3♂♂, 3♀♀, 3.V.1995, 生川). 紀和町布引滝 (2♂♂, 11.V.1996, 生川; 2 exs., 11.V.1996, 市川; 2♂♂, 5♂♂, 11.V.1996, 横関). 紀和町木津呂 (2♂♂, 2♀♀, 12.V.1996, 生川).

Parasilesis musculus musculus (CANDÈZE, 1873) クチブトコメツキ

四日市市中野町(2♂♂, 21.VI.1996, 市川). 亀山市野登山(1 ex., 13.VII.1992, 生川; 1♀, 24.VII.1992, 生川; 1 ex., 3.VII.1994, 生川; 1 ex., 31.VII.1994, 生川; 2 ex., 2.VIII.1995, 生川; 1♂, 21.VII.1996, 生川). 宮川村栗谷(1 ex., 9.VII.1994, 生川). 宮川村父ヶ谷(1♀, 15.VIII.1996, 生川).
四日市市中野町の1頭は上翅赤褐色型であった.

Glyphonyx bicolor bicolor CANDÈZE, 1893 キバネクチボソコメツキ

亀山市野登山(1♀, 7.VIII.1992, at light, 生川; 4 exs., 31.VII.1994, 生川; 1 ex., 6.VIII.1994, 生川; 11 exs., 2.VIII.1995, 生川; 2♀♀, 19.VIII.1996, 生川). 大内山村南亦山(2 exs., 19.VII.1995, 生川; 2 exs., 19.VIII.1995, 生川). 美杉村平倉(4♂♂, 15.VI.1988, 乙部).

Glyphonyx illepidus CANDÈZE, 1893 クチボソコメツキ

亀山市野登山(7 exs., 24.VII.1992, 生川; 1♀, 26.VII.1992, 生川; 1♀, 7.VIII.1992, 生川; 2♂♂, 12.VIII.1993, 生川; 1 ex., 31.VII.1994, 生川; 11 exs., 2.VIII.1995, 生川; 1 ex., 12.VIII.1995, 生川; 1♀, 19.VIII.1996, 生川). 大内山村南亦山(2 exs., 29.VII.1995, 生川).

Spheniscosomus cete (CANDÈZE, 1869) アカアシオオクシコメツキ

白山町四季の里(1♀, 6.V.1991, 河北). 伊勢市朝熊町(1♀, 28.IV.1991, 河北). 大内山村南亦山(1♀, 10.VI.1995, 生川). 尾鷲市桃頭島(1♂, 1♀, 4.V.1995, 市川). 尾鷲市九木神社(1♀, 5.VI.1994, 生川). 紀和町小船(1♀, 5.VI.1993, 中西).

Spheniscosomus japonicus (OHIRA, 1974) ハネナガオオクシコメツキ

亀山市野登山(2♂♂, 1♀, 25.VI.1992, 生川; 1♂, 20.VI.1993, 生川; 1♂, 3.VII.1994, 生川).

Spheniscosomus koikei (KISHII et OHIRA, 1956) ヒラタクシコメツキ

白山町四季の里(1♂, 6.V.1991, 河北).

Melanotus senilis senilis CANDÈZE, 1865 クロクシコメツキ

白山町四季の里(1♂, 27.IV.1991, 生川).

Melanotus correctus correctus CANDÈZE, 1865 ヒラタクロクシコメツキ

亀山市野登山(2♂♂, 25.VI.1992, 生川; 1♂, 20.VI.1992, 生川; 6♂♂, 17.VI.1993, 生川; 2♂♂, 20.VI.1993, 生川; 1♀, 11.VI.1994, 生川). 白山町四季の里(1♂, 4.V.1991, 河北; 1♀, 6.V.1991, 河北; 1♂, 27.IV.1991, 河北). 美杉村平倉(4♂♂, 15.VI.1988, 乙部; 1♂, 3.VI.1989, 乙部). 大内山村南亦山(1♂, 18.V.1995, 生川; 1♀, 20.V.1995, 生川; 1♂, 28.V.1995, 生川; 1♂, 31.V.1995, 生川; 1♂, 7.VI.1995, 生川; 3♂♂, 10.VI.1995, 生川; 1♂, 18.VI.1995, 生川; 2♂♂, 21.VI.1995, 生川; 1♂, 24.VI.1995, 生川; 1♂, 19.VIII.1995, 生川; 1♂, 15.VI.1996, 市川; 1♂, 16.VI.1996, 生川; 3♂♂, 15.VI.1996, 生川). 尾鷲市桃頭島(1♂, 4.V.1996, 市川). 尾鷲市三木崎(1♂, 3.V.1995, 生川). 紀和町木津呂(1♀, 12.V.1996, 市川). 紀和町布引滝(1♂, 11.V.1996, 横関).

Melanotus narukawai KISHII, 1996 ナルカワナガクシコメツキ(写真18 a, b)

大内山村南亦山(1♂, HOLOTYPE 写真a 18.V.1995, 生川; 1♀, 写真b 26.VI.1996, 生川).

近似の種類から分離されて独立種扱いされるものとは異なり, 一見して今までに見られなかった大型で目立つものである. 台湾にやや似たものが複数種あるが, もちろんこれらとは明らかに異なるものである.

Melanotus legatus legatus CANDÈZE, 1860 クシコメツキ

菰野町雲母峰(1♂, 28.VII.1993, 生川). 鈴鹿市長瀬神社(4♂♂, 28.V.1993, 生川). 亀山市野登山(1♂, 13.VII.1992, 生川; 3♂♂, 3.VII.1994, 生川). 白山町四季の里(1♂, 1.VI.1991, 河北). 伊勢市高麗広(1♂, 25.VI.1994, 生川). 宮川村父ヶ谷(1♂, 1♀, 22-23.VIII.1992, 松井; 2♂♂, 15.VIII.1996, 生川). 大内山村南亦山(5♂♂, 7.VI.1995, 生川; 1♂, 10.VI.1995, 生川; 1♂, 24.VI.1995, 生川; 1♂, 9.VII.1995, 生川; 6♂♂, 15.VI.1996, 市川; 8♂♂, 15.VI.1996, 生川). 尾鷲市桃頭島(1♂, 4.V.1996, 市川). 尾鷲市九木神社(1♂, 5.VI.1994, 生川). 尾鷲市三木崎(2♂♂, 1.VI.1996, 生川).

Melanotus lewisi lewisi SCHENKLING, 1927 ルイスクシコメツキ

菰野町雲母峰(1♂, 28.VII.1993, 生川). 美杉村平倉(1♂, 23.VII.1989, 乙部). 宮川村父ヶ谷 (2♂♂, 22-23.VIII.1992, 松井).

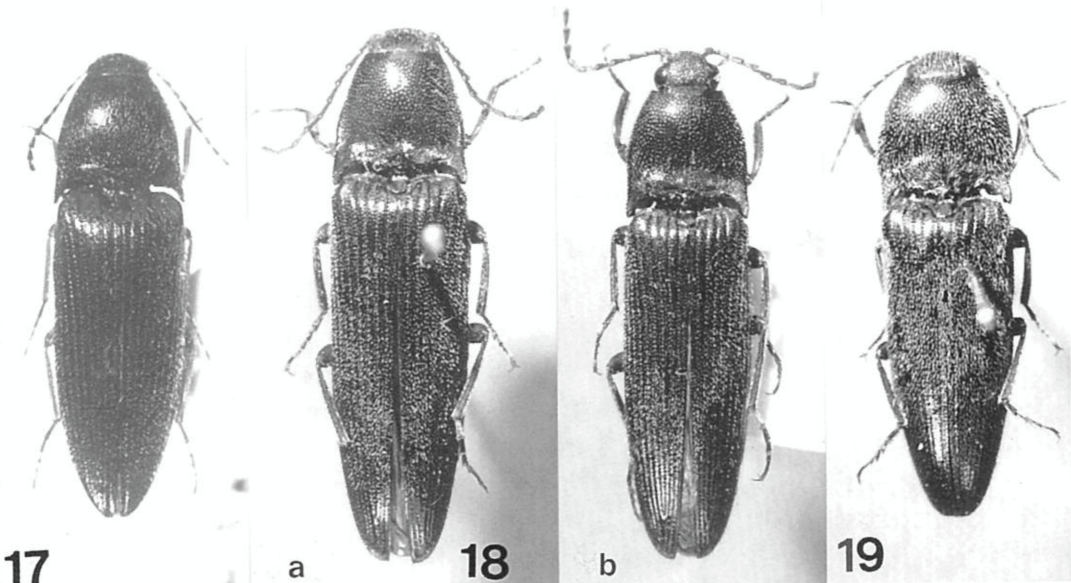


写真17-19: 17. タンバコクロコメツキ; 18. ナルカワナガクシコメツキ (a♂, b♀); 19. ヒメクシコメツキ.

Melanotus legatoides KISHII, 1975 ヒメクシコメツキ(写真19)

亀山市野登山 (1♂, 11.VI.1994, 生川; 1♀, 5.VIII.1994, 生川; 1♀, 2.VIII.1995, 生川; 1♀, 11.VIII.1996, 生川; 1♂, 21.VIII.1996, 生川). 美杉村平倉(2♂♂, 1♀, 23.IX.1996, 市川). 宮川村父ヶ谷 (3♂♂, 15.VIII.1996, 生川). 大内山村南亦山 (1♂, 18.V.1995, 生川; 1♀, 9.VII.1995, 生川).
北海道から屋久島まで各地に広く分布し、岐阜・愛知・奈良・和歌山からは既に記録されていたが、三重県下からの報告例はかった。上記のクシコメツキほど普通ではないが、珍しいものでもない。これと混同されていたものと考えられる。

Melanotus erythropygus erythropygus CANDÈZE, 1873 コガタクシコメツキ

白山町四季の里(1♂, 27.IV.1991, 河北; 1♂, 4.V.1991, 河北). 美杉村平倉 (1♀, 21.VI.1989, 乙部; 1♀, 13.VII.1996, 市川). 宮川村大和谷 (1♂, 3.V.1994, 生川). 大内山村南亦山 (1ex., 6.V.1995, 生川; 14exs., 18.V.1995, 生川; 5exs., 20.V.1995, 生川; 8exs., 28.V.1995, 生川; 2exs., 7.VI.1995, 生川; 7exs., 10.VI.1995, 生川; 11exs., 26.V.1996, 生川; 2♂♂, 26.V.1995, 市川; 1♂, 2.VI.1996, 生川; 1♂, 15.VI.1996, 市川; 1♂, 15.VI.1996, 生川). 尾鷲市桃頭島(2♂♂, 4.V.1996, 生川; 3♂♂, 4.V.1996, 市川). 尾鷲市三木崎 (1♂, 1♀, 3.V.1995, 生川).

Oedostethus telluris (LEWIS, 1879) クロツヤミギワコメツキ

紀和町小船(2exs., 11.VI.1991, 中西).

Fleutiauxellus (Neomigiwa) quadrillum (CANDÈZE, 1873) ヨツモンミズギワコメツキ

亀山市野登山 (1♂, 9.VI.1992, 生川; 1♂, 1♀, 9.VII.1992, 生川). 白山町四季の里(1♂, 1.VI.1991, 河北).

Fleutiauxellus (Migiwa) tutus (LEWIS, 1894) キアシミズギワコメツキ

宮川村広クリ谷 (3♂♂, 10.VII.1994, 生川).

Fleutiauxellus (Migiwa) niponicus (KISHII, 1957) ニホンミズギワコメツキ

四日市市宮妻峡(1ex., 20.V.1979, 生川). 宮川村広クリ谷(1♀, 10.VII.1994, 生川).

これまで、青森・秋田・新潟・福井・長野・和歌山・広島・福岡・大分から知られていたが、三重県の記録は見当たらなかった。

Fleutiauxellus (Migiwa) curatus curatus (CANDÈZE, 1873) ミズギワコメツキ

宮川村広クリ谷(2♂♂, 3♀♀, 10.VII.1994, 生川). 紀和町布引滝(1♂, 25.V.1996, 横関).

Quasimus japonicus KISHII, 1959 ニホンチビマメコメツキ

大内山村南亦山(1♀, 18.V.1995, 生川; 1♀, 16.VI.1996, 生川). 紀和町布引滝(1♂, 25.V.1996, 横関).

Quasimus ranzanus KISHII, 1970 ニセニホンチビマメコメツキ

大内山村南亦山(1♀, 7.VI.1995, 生川). 尾鷲市桃頭島(6exs., 4.V.1996, 市川). 紀和町木津呂(2♂♂, 12.V.1996, 生川).

前種 *Q. japonicus* ニホンチビマメコメツキと極めてよく似ているが、前胸背板点刻が大きく密なので区別しやすい。秋田から五島列島まで点々と分布しており、京都を原産とし和歌山からは知られていたが、今までのところ岐阜・愛知・三重・奈良などからは未記録であった。

Quasimus ovalis (CANDÈZE, 1873) マルマメコメツキ

大王町船越池(2exs., 22.V.1994, 生川). 紀和町布引滝(1♀, 11.V.1996, 生川).

Yukoana carinicollis (LEWIS, 1894) ヘリムネマメコメツキ

大内山村南亦山(2♂♂, 6.V.1995, 生川; 1♀, 18.V.1995, 生川; 1♂, 20.V.1995, 生川). 紀和町木津呂(2♀♀, 11.V.1996, 横関; 1♀, 12.V.1996, 市川).

Yukoana elliptica (CANDÈZE, 1873) ヘリマメコメツキ

大内山村南亦山(1♂, 7.VI.1995, 生川).

Paracardiophorus pullatus (CANDÈZE, 1873) コハナコメツキ

白山町四季の里(2exs., 6.V.1991, 河北).

Paracardiophorus sequens sequens (CANDÈZE, 1873) アカアシコハナコメツキ

松阪市松名瀬海岸(1♀, 29.VI.1996, 生川).

(きしいたかし)

ヒメナガセスジホソカタムシの採集例

生川展行

〒513-0015 三重県鈴鹿市木田町2399



ヒメナガセスジホソカタムシは *Bitoma niponia* (LEWIS) は、体長が 2-3 mm と小さいこともあって全国的に記録は少なく、筆者の調べた範囲では、石川県・福井県・三重県・山口県・福岡県で記録されているに過ぎず、記録されている個体数も少ない。因に三重県では、灯火に飛来した個体が3箇所合計6頭採集されていただけである。

今回、筆者は三重県上野市内で、道路拡幅のため伐採されたコナラの枯枝のピーティングにより本種を得ることができたため、再度同じ場所で灯火採集を試みたところ、下記のように多数の個体を得ることが出来た。

採集に同行し協力いただいた横関秀行、森田久幸の両氏に心よりお礼を申し上げます。

ヒメナガセスジホソカタムシ 5 exs., 三重県上野市諏訪, 7-VI-1998, 筆者採集保管。(ピーティング)

316 exs., 三重県上野市諏訪, 27-VI-1998, 筆者採集保管. (灯火採集)

6月27日は, 午後7時過ぎに点灯したところ, 9時ころまでに多数の個体が飛来したが, 9時を過ぎると飛来する個体数は少なくなった. (なるかわのぶゆき)

ちょっと気になる甲虫の情報 (X)

科ランクの帰属が不安定な甲虫など, そう多くある筈もないが, Heteromeraと呼ばれる甲虫群には時々その例があり, 本属 (*Stolius* LEWIS, 1895) はその一つである. 初めカミキリモドキ科として記載されたが, ナガクチキ科とされ, さらにはクビナガムシ科に移された. したがって和名もクビナガムシに変更すべきかとも思われるが, 研究によっては又変わるかもしれないので, 従来そのままにしておこう.

現在, 2種あり, ヨツボシキバネナガクチキの方は晩秋~初冬にサルナシの枯れ枝を叩く方法で得られるようになり, 珍品度がかかなり下落したが, 本種ヒラテの方は分布概況すらまだ判然としない. 今回は分布空白地域からの記録を寄せていただいた. (水野弘造)

Stolius diversipes (PIC, 1932) ヒラテナガクチキムシ

(1) ヒラテナガクチキムシ四国東部の記録

山地 治

〒701-1221 岡山市芳賀 5116-11

ヒラテナガクチキムシは従来, 本州中央部の山地帯と紀伊半島から, 少数の記録が報じられたに過ぎない稀種と考えられていたが, 九州 (城戸, 1996) 1), 四国 (白石, 1998) 2) からの報告により, かなり広く分布するものと考えられる.

筆者は, 四国東部での採集個体を検したので報告しておきたい. 標本をお譲りくださった渡辺昭彦氏に感謝する.

1 ♂, 徳島県那賀郡木沢村土須峠, 29. IX. 1991, 渡辺昭彦 (採). 山地 治 (蔵)
[文献] 1), 城戸克弥(1996), 甲虫ニュース, (114), 6.

2), 白石正人(1998), 月刊むし, (330), 39.

(やまじおさむ)



ヒラテナガクチキムシ

(2) ヒラテナガクチキムシ青森県の記録

尾崎俊寛

〒017-0872 秋田県大館市片山町 3-13-10

ヒラテナガクチキムシの東北地方の記録としては, 福島県 (石川・豊嶋, 1995) 1) を見るのみであるが, 筆者は青森県の標本を採集所持しているので, 報告する.

1 ♂, 青森県上北郡十和田湖町蔦, 5. X. 1996, 尾崎俊寛 (採・蔵)

なお, 同属のヨツボシキバネナガクチキムシ *Stolius vagepictus* LEWIS については東北地方では福島県 (田添・大桃, 1990) 2), 岩手県 (高橋・菊地, 1992) 3) の報告が見られるが, 青森県からは同様に未記録と思われるので, ここに報告しておく.

1 ♂, 青森県南津軽郡平賀町矢捨山, 20. IV. 1997, 尾崎俊寛 (採・蔵)

末筆ではあるが、これら標本を同定してくださり、記録発表を勧められた水野弘造氏にお礼申しあげる。

- [文献] 1), 石川 豊・豊嶋亮司(1995), 月刊むし, (293), 34.
2), 田添京二・大桃定洋(1990), 福島生物, (33), 7.
3), 高橋泰美・菊地 透(1992), 岩手虫乃会会報, (19), 7-11.

(おざきとしひろ)

ちょっと気になる甲虫の情報 (XI)

地味なメンバーの多いコメツキダマシの中で、黄紋まだらの本種は注目を集める存在であり、とびきりの珍種ということで一段と迫力を増す。科ランクの位置付けがコメツキダマシなのかヒゲトコメツキなのかで、専門家にとっても難題の甲虫ということらしく、こうなると雑甲虫屋には所有欲を掻きたてられる対象でなからう筈はない。(水野弘造)

Subprotelater japonicus NAKANE et HISAMATSU, 1991 ナラキマダラコメツキダマシ



ナラキマダラコメツキダマシの採集記録

山地 治

〒701-1221 岡山市芳賀 5116-11

奈良市春日山で 1958 年中根猛彦博士が採集された 1 ♀ (holotype) のみが知られていたコメツキダマシの美麗珍種であるが、筆者は次のデータラベルを有する標本を採集者(竹内幸夫氏)より譲り受け、保管している。

1 ex., 鳥取県佐治村高鉢山, 4. VII. 1980, 竹内幸夫(採), 山地 治(蔵)

採集時の状況は分からない。貴重な標本を快くお譲りくださった竹内氏に感謝申しあげるとともに、筆者の怠慢で報告が遅れたことをお詫びする。

[文献]

1. 中根猛彦(1987), 月刊むし, (198), 7-11. 図.
2. 中根猛彦(1991), 北九州の昆虫, 38(2), 111-115.

(やまじおさむ)

ちょっと気になる甲虫の情報 (XII)

環境悪化で種の存続そのものが危ぶまれる代表例とも云える本種ではあるが、その気で調査すれば、意外としぶとく生き続けているようである。しかし環境に圧力をかけているのは、ほかならぬ吾々人類の過剰欲望であり、瀬戸内海から本種を締め出していることを忘れてはなるまい。(水野弘造)



生息環境

Callytron inspeculare (HORN, 1904) ヨドシロヘリハンミョウ

高知県におけるヨドシロヘリハンミョウの記録

芦田 久

〒616-8182 京都市右京区太秦北路町 8-3-406

ヨドシロヘリハンミョウ *Callytron inspeculare* (HORN) は、瀬戸内海沿岸および九州沿岸の各地で記録されているが、四国の太平洋沿岸からは記録がなかった。筆者は最近、種子島(芦田 1997; 永野・芦田, 1998)や九州本土南部(芦田・鎌田, 1997)でも本種を見だしており、四国の太平洋沿岸にも分布するのではないかと予想していた。今回、高知県西部から愛媛県南西部の沿岸地域を調査したところ、以下の一産地を発見したので報告する。

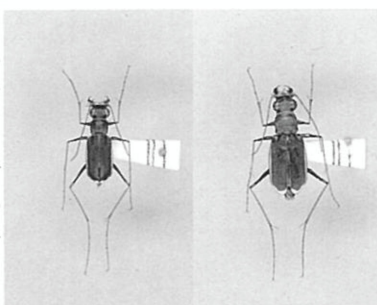
15♂9♀, 高知県中村市鍋島, 16.VIII.1996, 芦田久, 採集

[文献]

芦田 久(1997), 月刊むし, 318: 10-12. PL.1.

芦田 久・鎌田邦彦(1997), 月刊むし, 322: 24-25.

永野篤弘・芦田 久(1998), 月刊むし, 330: 38-39.



ヨドシロヘリハンミョウ (右: ♀; 左: ♂)

(あしだひさし)

『ちょっと気になる甲虫の情報(**)』の文献引用に関して

前記の表題の短報を引用する場合、複数の人が入れ篋状に書いているので、どういう風に引用すればよいのかとの問い合わせが数人からありました。編集部で書き添えた部分は、松前追分ヶのソイ掛けに当たるものと考え、引用したい部分は直接著者名のすぐ上に当たる表題からと考えて下さい。すなわち『ちょっと気になる甲虫の情報(**)』の表題とそれに伴う導入文は、全く無視していただいて結構です。(編集部)

ミツボシケシナガクチキの北海道の記録

伊藤勝彦

〒082-0017 北海道河西郡芽室町東7条6丁目

ミツボシケシナガクチキ *Wanachia trisignata* (CHAMPION) は、平嶋(1989)によるとその分布は本州及び九州とされ北海道、四国は含まれていない。その後、佐藤正昭ら(1996)は四国から記録を報じているが、筆者の知る限り未だ北海道からの正式な記録はない。筆者は根室市落石で本種を採集したので記録しておきたい。



ミツボシケシナガクチキ

本種はスエヒロタケと思われるキノコが生えたトドマツの立ち枯れよりたたき網法で得られ、このキノコとの関係は深いものと考えられる。

水野弘造氏からは、NIKITSKY(1989)により国後島から記録されており、当然北海道からの記録も予測されていたことをご教示いただいた。

文献についてご教示いただき、発表を勧められた水野弘造氏(宇治市)、本種の同定をいただいた上野輝久氏(九州大学)に深謝する。

20 exs., 北海道根室市落石, 13.IX.1997, 筆者採集

参考文献

平嶋義宏監修(1989) 日本昆虫総目録, 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター。

黒澤良彦ほか(1985) 原色日本甲虫図鑑(III), 保育社。

水野弘造(1992) 九州産ナガクチキミシの記録と概説(2), 北九州の昆虫 39(1): 33-44.

----- (1997) ナガクチキミシ, 昆虫と自然 32(2): 4-8.

NIKITSKY, N.B. (1989) The beetles families Tetratomidae and Melandryidae of the USSR Far East. Sbornik Trud.Zool.Mus.MGU 27: 3-89.

佐藤正昭ら(1996) 町史ことひら I: 136.

(いとうかつひこ)

大阪湾沿岸地域におけるコメツキムシの記録

河上康子

〒569-0826 高槻市寿町2丁目30-9

筆者は大阪湾沿岸各地において海浜性甲虫の調査を行い、コメツキムシ科について、岸井 尚博士に同定並びにご教示頂いたのでここに報告する。

Agrypnus (Colaulon) tsushimensis tsushimensis OHIRA, 1986 ツシマヒメサビキコリ

兵庫県明石市松江海岸 (9exs., 30.IX.1997, 河上); 兵庫県神戸市舞子浜 (4exs., 7.VI.1997, 河上; 1ex., 19.IV.1998, 河上; 1♀, 16.VI.1998, 河上); 兵庫県西宮市甲子園浜 (1ex. 8.I.1998, 河上; 2♂♂, 2♀♀, 27.V.1998, 河上); 大阪府大阪府市淀川区矢倉海岸 (33exs., 6.V.1998, 河上)

Agrypnus (Colaulon) tsukamotoi tsukamotoi (KISHII, 1956) ハマベオオヒメサビキコリ

兵庫県淡路島南淡町吹上浜 (1ex., 9.V.1998, 河上); 大阪府大阪市市箱作海岸 (1♂, 20.V.1998, 河上)

Agrypnus (Colaulon) hypnicola (KISHII, 1964) コガタヒメサビキコリ

大阪府大阪市住之江区大和川河川敷 (2♂♂, 1♀, 13.VII.1998, 河上)

Meristhus (Sulcimerus) niponensis LEWIS, 1894 スナサビキコリ

兵庫県淡路島南淡町吹上浜 (1ex., 10.V.1998, 河上)

Oedostethus telluris (LEWIS, 1879) クロツヤミズギワコメツキ

兵庫県淡路島洲本市厚浜 (1♀, 23.V.1998, 河上); 兵庫県西宮市御前浜 (1ex., 25.VI.1998, 河上)

Flutiauxellus (Neomigiwa) quadrillum (CANDÈZE, 1873) ヨツモンミズギワコメツキ

兵庫県淡路島洲本市洲本港付近 (3exs., 23.V.1998, 河上); 兵庫県西宮市御前浜 (1ex., 25.VI.1998, 河上)

Paracardiophorus sequens sequens (CANDÈZE, 1873) アカアシコハナコメツキ

兵庫県淡路島淡路町岩屋海岸 (1ex., 23.V.1998, 河上); 兵庫県明石市松江海岸 (21exs., 13.V.1998, 河上); 兵庫県神戸市舞子浜 (1ex., 19.IV.1998, 河上); 兵庫県神戸市須磨浦 (3exs., 27.V.1997, 河上)。

岸井博士の話では、ツシマヒメサビキコリは、これまで外海に面した沿岸地で見られていた種であり、このような内海沿岸地に広く普遍的に棲息している所は知られていなかった。しかも、距離的にはすぐ近くで同じ海域の海岸でありながら、対岸の淡路島や和歌山あたりの海岸線には、ハマベオオヒメサビキコリが広く分布している。今回も、淡路島吹上浜及び阪南箱作の個体はツシマヒメサビキコリであり、この2種の後翅退化型のヒメサビキコリが狭い地域で棲み分けているようで、興味深い。また、箱作のツシマヒメは大阪府の初記録となる。住之江区大和川でのコガタヒメサビキコリは、どちらかという内陸性の種であり、京都の木津川で多数の個体を見ているが、珍しい種である。下翅は退化することなく飛翔可能の状態、前胸後角が直角に近く、(先端は裁断状)その外縁基部のえぐりは極めて弱い点で区別できる。

スナサビキコリの属は海浜性甲虫の代表的なものの一つで、*niponensis* は本邦特産種である。現在、青森-四国-九州の多地域からの記録例があるが、兵庫県からは初記録となる。

クロツヤミズギワコメツキとヨツモンミズギワコメツキの2種は共に大阪兵庫から記録されているが、淡路島からは初めてとなる。

アカアシコハナコメツキの個体中には、脚部の黒いものが交じっている。通常は黄赤褐色だが、北上するにつれ黒色になる傾向があり、コハナコメツキやクロコハナコメツキと間違い易いが、体色の色彩や、前胸背点刻などで区別でき、雄の生殖器構造では極めてはっきり区別できる。

同定の手間をとらせ、種々ご教授頂き、また記録の公表を勧めて頂いた岸井博士に心から御礼申し上げる。また、日頃より細やかな御指導を頂き、本稿に助言頂いた初宿成彦氏に感謝申し上げます。

参考文献

岸井 尚(1998). 'ねじればね' (79): 6.

KISHII, T. (1996). Bull. Heian high school (39): 1-10, figs. 1-48.

(かわかみやすこ)

ブタクサハムシ西へ

東 浩司

〒560-0021 大阪府豊中市本町7-7-19

Ophraella notulata (FABRICIUS) ブタクサハムシは、大野 (1997) により紹介された北米原産のハムシである。その後、岩田(1998)により神奈川県から追加記録され、更に近畿地方では、市川・細井・宮武(1998)により大阪府枚方市淀川河川敷で、河上(1998)により大阪府高槻市芥川河川敷で追加記録された。筆者は大阪府豊中市及び兵庫県尼崎市において本種を採集しているので記録しておきたい。

5exs., 16.VIII.1998; 12exs., 29.VIII.1998; 10exs., 5.IX.1998., 大阪府豊中市原田西町猪名川河川敷
10exs., 16.VIII.1998., 大阪府豊中市庄本町

5exs., 16.VIII.1998., 兵庫県尼崎市榎堂猪名川河川敷

筆者は数年来、上記の地域において採集を試みているが、昨年までは本種の生息を確認していない。このことより本種がこれらの地域に定着したのは1998年になってからであると推定できる。今回の本種の採集時に得た知見と感想を以下に示す。

まず加害植物であるが、ブタクサ・オオブタクサ及びオオオナモミについて幼虫・成虫ともに加害するのが確認できた。しかし嗜好には差があるようで、ブタクサ・オオブタクサは、ほとんどのものが加害をうけ、壊滅状態となっているのに対し、オオオナモミの場合は、比較的被害が少なく、全く加害が認められないものもあった。今後、ブタクサ・オオブタクサの衰退に伴い、オオオナモミへの被害が拡大するかどうか見守っていきたい。次に生育ステージであるが、最初に本種を観察した8月16日には幼虫段階のものが最も多く、成虫は比較的少なかったが、8月29日及び9月5日には成虫段階のものが多く見られ、幼虫は少なくなっていた。また数量的な差はあるものの、いずれの場合においても、卵・幼虫・蛹及び成虫の各ステージが観測された。このことより、発生はだらだらと連続的に行われているものと示唆された。卵は橙黄色で葉の表面に産み付けられ、1卵塊は50卵前後であった。蛹は葉の表面又は裏面に造られた薄い繭状の蛹室内に位置していた。



ブタクサハムシ

今後の本種の動向であるが、これは通常西から東へ分布を広げる昆虫が多いなかでは、興味のある現象である。クモガタテントウの分布の拡大に似ているような気がする。一方、今回本種を採集した地域では、いずれもルリクチブトカメムシを同時に採集している。このカメムシは本種と比較的近いグループ関係にあるイチゴハムシの天敵として知られている。今回の観察では、このカメムシによる捕食行為は確認できなかったが、本種に対する有力な天敵として働く可能性は高い。本種は小さな目立たないハムシであるが、植物への加害状況には人目を引くものがある。今のところ近畿地方では、秋に河川敷を中心に得られているが、今後における本種の動向については、十分注意を払って行きたい。

文献

- 大野正男, 1997., 昆虫と自然, 32(11): 35.
岩田隆太郎, 1998., 月刊むし(325):43-44.
市川顕彦・細井孝昭・宮武頼夫, 1998. NATURE STUDY (3):7-8.
河上康子, 1998. IBID., :8.
安永智秀・高井幹夫・山下泉・川村満・川澤哲夫, 1993. 日本原色カメムシ図鑑, 全国農村教育協会 :237.

(あずまこうじ)

虫屋の広場 (12)

地域別総合甲虫目録 [III]

今回は区市町村単位全域ではないが、その行政単位名が明示されたより小地域のものと前回までの紹介に漏れていたもの、前回以降に発行されたもの、などを紹介する。いずれも1990年以降の発行日のものに限っており、古いものは省略する。(水野弘造)

◎県単位目録(追加)

[山形県]

大津高(1991),「山形県陸産淡水産動物目録」(山形県動物環境調査会、358PP.)昆虫綱:93-274. コウチュウ目:115-190. [93科,1943種]

[神奈川県]

平野幸彦(1998),続・神奈川の甲虫 XVII, 神奈川虫報, (121), 1-15. (科別種数表) [117科, 3843種]

[新潟県]

小池寛(1998), 新潟県の甲虫, 越佐昆虫同好会報, (80), 24-28. (科別種数表: 文献記録の集計) [101科, 2805種]

[福井県]

佐々治寛之(1990),「目録」発行後に福井県から追加記録された甲虫類の目録, 福井虫報, (6) 39-51. (追加) [370種] (合計科別種数表) [114科, 3014種]

[愛知県]

穂積俊文(1998),「愛知県の昆虫・甲虫目」の追加記録(7)ー1996年のまとめー, 佳香蝶 50 (193), 1-8. (追加)[42科, 154種](合計) [108科, 2710種]

[和歌山県]

的場績(1995),「和歌山県産甲虫類既報の整理」の訂正と追加 1-2, KINOKUNI, (48), 28-38. (50), 30-47.(合計) [99科, 2267種]

[兵庫県]

高橋俊郎(1993), 東播磨の甲虫相 (1), きべりはむし, 21 (2), 37-43. (東播磨の科別種数: 79 科, 1046種. に対比して県全域の合計数) [111科, 3139種]

◎区市町村単位目録・小地域目録(その1)

表題や報告内容から該当地域の地方行政区域名が明確なものを集めた。複数の市町村に跨がる地域は除外されていると考えてよい。

1. 広島県高野町

秋山美文・中村慎吾(1998), 広島県高野町の甲虫類, 「広島県高野町の自然誌」(高野町, 676PP.), 371-454. [71科, 1070種]

2. 広島県蒲刈町(上蒲刈島)

中村慎吾(1998), 蒲刈町の昆虫目録, 「蒲刈町誌自然編(資料集)」(蒲刈町), 159-259. コウチュウ目: 173-218. [53科, 418種]

3. 広島県大竹市

中村慎吾ら(3名)(1998), 広島県大竹市小瀬川の昆虫類、1996年の調査結果, 比和科学博物館研究報告, (36), 53-142. コウチュウ目: 74-89, 119-127. [39科, 306種]

4. 岡山県新庄村

重井博ら(3名)(1998), 新庄村毛無山地域の昆虫, 「自然保護基礎調査報告書, 新庄村毛無山地域」(岡山県, 152PP.), 83-152. コウチュウ目: 117-135. [67科, 769種]

5. 岡山県岡山市

重井博ら(3名)(1998), 安仁神社郷土自然保護地域の昆虫, 「自然保護基礎調査報告書, 安仁神社郷土自然保護地域」(岡山県, 52PP.), 29-52. コウチュウ目: 41-48. [38科, 176種]

6. 岡山県総社市
光枝洋(1997), 高梁川中流域二次林の甲虫相, 岡山県立玉野高等学校研究紀要, (34), 24PP., [63 科, 420 種]
7. 大阪府豊中市
東浩司(1997), 島熊山の甲虫相 (大阪府豊中市の元ヘリポート建設予定地の甲虫調査) 関西甲虫談話会資料, (12), 1-12. [36科,182種]
8. 岐阜県国府町
高井泰(1997), 国府町宇津江四十八滝で採集した甲虫, 啓蟄, 14(36), 1-6. [33科,153種]
9. 宮城県大郷町
高橋雄一(1997), (仮称) 東成田県自然環境保全地域候補地の昆虫相, 「(仮称) 東成田県自然環境保全地域候補地学術調査報告書」(宮城県), 87-143. 4PLL. 甲虫目: 89-98. [27科,159種]
10. 福岡県玄海町
城戸克弥(1997), 福岡市周辺離島の甲虫類 [XI-XII]、地ノ島(1-2), 北九州の昆虫, 44(1),60-64. 44(2),169-175. [178種]
11. 福岡県大島村
城戸克弥(1994-1997), 福岡市周辺離島の甲虫類 [VII-X]、筑前大島(1-4), 北九州の昆虫, 41(2), 139-146. 42(1),67-74. 42(1),75-81. 44(1),57-59. [49科,378種]
12. 福岡県飯塚市
山脇好之(1991-1997), 笠置山の鞘翅目(9-15), KASAGI, (1-7), 1-108. [(1-8):北九州の昆虫,31(3)-38(2), '84-'91] (合計) [1387種]
13. 福島県福島市
福島虫の会調査班(1994-1997), 福島市摺上川上流域の昆虫, ふくしまの虫, (12),3-67. (14),17-22. (15),27-29. コウチュウ目: 久保田憲二ら. [70科,747種]
14. 福島県金山町
福島虫の会調査班(1996), 福島虫の会調査会(金山町烏帽子林道) 報告, ふくしまの虫, (14), 2-16. コウチュウ目: 久保田憲二・芳賀馨; 8-15. [235種]
15. 岡山県佐伯町
青野孝昭(1996), 岡山県自然保護センターの甲虫類, 岡山県自然保護センター研究報告別巻 (1), 49-73. [66科,402種]
16. 新潟県長岡市
山屋茂人(1996), 長岡市悠久山の鞘翅目相, 長岡市立科学博物館研究報告,(31), 27-40. [54 科, 390 種]
17. 神奈川県厚木市
平野幸彦ら (5 名) (1996), 厚木市荻野の甲虫類 (第 2 報), 「厚木市荻野の動物 II」(厚木市教育委員会), 79-144. [82科,1101種]
18. 福井県敦賀市
佐々治寛之・岸本修 (1996), 福井県敦賀市中池見湿地の昆虫相とその自然環境保全の提言, 福井大学積雪研究室研究紀要「日本海地域の自然と環境」, (3), 15-36. コウチュウ目: 29-33. [63科, 540 種]
19. 三重県鈴鹿市
生川展行(1996), 鈴鹿市長瀬神社の甲虫類, ひらくら, 40(2)(339), 55-64. [39科,125種]
20. 埼玉県小鹿野町
小鹿野町(1996), 「小鹿野町自然環境調査報告書, 小鹿野町の自然II " 山地・平地の動植物」191

PP. 鞘翅目:長島武志;105-115.[43科,276種]

21. 熊本県上村
荒巻健二・城戸克弥ら(1994-1996), 熊本県上村白髪岳で採集した甲虫類(1-2), KORASANA, (62), 27-31. (64), 62-68. [119種以上]
22. 岡山県奥津町
那須敏ら(7名)(1995), 「苫田高校跡地環境調査報告書」(日本鱗翅学会自然保護委員会・岡山県奥津町問題特別委員会), 昆虫:31-80. 甲虫目:71-78. [40科, 237種]
23. 京都府京都市左京区
高橋敏(1995), 尾越の甲虫, 「尾越のいのちー尾越山林環境調査報告書」(京都女子学園), 135-154. [72科, 688種]
24. 宮城県小野田町
高橋雄一(1995), 荒沢県自然環境保全地域候補地の昆虫相「(宮城県加美郡小野田町荒沢地域) 荒沢県自然環境保全地域候補地学術調査報告書」, 107-173. 6PLL. 甲虫目:133-147. [33科, 241種]
25. 三重県上野市
上野市法花湿地昆虫調査班(1995), 上野市法花湿地の昆虫類, 三重自然誌, (2), 25-40. 鞘翅目:32-37. [37科, 153種]
26. 埼玉県北本市
牧林功(1995), 北本市の甲虫類, 「北本の動植物誌」(北本市教育委員会, 466PP.), 195-246. [74科, 626種]
27. 青森県青森市
青森市(1994), 「青森市雲谷周辺の自然」, 295PP. 昆虫:149-264. コウチュウ目:市田忠夫ら, 208-228. [63科, 612種]
28. 岩手県一関市
高橋泰美・菊地透(1994), 一関市真湯の灯火で得た甲虫目録, 岩手県産甲虫類分布資料, (2), 1-31. [47科, 280種]
29. 富山県富山市
中川秀幸ら(4名)(1994), 呉羽丘陵の昆虫類, 「富山市呉羽丘陵自然環境調査報告」(富山市科学文化センター), 69-163. 甲虫目:121-151. [69科, 641種]
30. 岐阜県荘川村
大橋章博・野平照雄(1994), 訪花性誘引剤で捕獲された昆虫類(II), 岐阜県林業センター研究報告, (22), 11-50. [57科, 455種]
31. 長崎県野母崎町
楠井善久(1994), 樺島の甲虫採集記録, 長崎県生物学会誌, (43), 69-75. [28科, 128種]

[訂正] ねじればね, (79), 13-14. (前回) の1. 新潟県津南町, の発行年(1988)は, 誤植につき, (1998)年に訂正します.

虫屋の広場 (13) [新刊紹介]

◎ テントウムシの自然史

佐々治寛之 著. 251PP. 発行元:東京大学出版会 (30.I.1998)

一著者のライフワークであるテントウムシ研究のエッセンスがこの一冊に凝縮されている. 本会会員必読の書のひとつであろう. 著者によるあとがきには, 当初プランを病のため, 大幅に縮小し, 4年遅れで完成されたことを述べておられるが, 健康維持に努められ, 二冊目, 三冊目の出版をぜ

ひとも期待したいものである。

◎ ベニボシカミキリの世界

高桑正敏 編. 231PP.(32PLL.) 発行元;むし社 (25.II.1998)

一本書はベニボシ・マニアが寄り集まって作り上げた楽しい一冊, コレクター派は買わないでは済まされない重要書籍になることまちがいない。

◎ 世界のハナムグリ大図鑑

酒井 香・永井信二 共著. 421PP.(144PLL.) 発行元;むし社 (10.VII.1998)

一図鑑の生命は原色図の出来栄えに尽きるが、よくもこれほどきれいに仕上がったものと驚かされる。しかも99%完品標本で、きちんと整形されたそのわざは、並の人間に真似のできる領域をこえており、著者の執念の結実であろう。日本からこのような上質の図鑑が世界に向けて発行される時代になったことを、共に喜びたい。(水野弘造)

会報

急 告

林 匡夫会長逝去

林 匡夫会長が10月5日急逝されましたことを、謹んでお知らせ申し上げます。

幹事一同全く予期せぬ事態に、混乱しておりますが、早く立ち直り、協力して今後の日本甲虫学会の発展に努めることが、亡くなられた林先生の御遺志にお答えすることになるのではないかと考えております。そのためにも会員の皆様の御協力を切に御願ひ申し上げます。(元常任幹事 澤田高平)



故林 匡夫会長

本会々長 急逝に伴い、故林匡夫博士宅においておりました本部を廃止変更致します。会務処理(郵便及び連絡)は当面以下のところで行いますので、引き続きよろしくお願い致します。

評論原稿その他の連絡先は林 靖彦、入会及び会費については野村英世、『ねじればね』については従来どおり水野弘造および伊藤建夫が担当いたします。

林 靖彦 〒666-0116 兵庫県川西市水明台3-1-7 3 Tel. 0727-93-3712

野村英世 〒590-0144 大阪府堺市赤坂台1-1 8-5 Tel. 0722-98-4066

採集会(1998年)報告

日本甲虫学会採集会は、1997年に続いて奈良県上北山村の和佐又山で開催(27-28. VI. 1998)。今回は、日本鞘翅学会との合同開催としたため、前人気も上々で、関東や北陸あたりからも申し込みが続々とあり、しかも各分野のオーソリティーの参加で、ビギナーにとってもネクラ虫屋にとってもまたとない相互交流の機会となった。

ヒュッテから100mも歩けば、オオクボカミキリやヒメコブヤハズカミキリが採れる場所がらだけに、遠来の参加者は寸暇を惜しんで採集にはげみ、夕食懇親会の後はアルコールが団欒の輪をいくつも作って、いつ果てるとも知れない盛り上がりであった。総勢34名のほとんどが、ふと気づいたときは日付が変わっていた。

来年1999年は、もう2週間ずらして7月10-11日に、しつこくもまた和佐又山で開催の予定。再び日本鞘翅学会と共催ですので、ご期待のうえ、今年参加された方も参加されなかった方も多数ご参加ください。(水野弘造)



発行: 1998. 10.15 日本甲虫学会 〒666-0116 兵庫県川西市水明台3-1-73 林 靖彦
Tel. 0727-93-371 振替口座: 00990-8-39672
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>

ねじればね原稿送付先

〒611-0002 宇治市木幡熊小路19-35 水野弘造 Tel. 0774-32-4929
〒614-8371 八幡市男山雄徳8 E7-303 伊藤建夫 Tel.(Fax) 075-983-3491